

電子情報通信学会ワードテンプレート (タイトル) for CCS — 技術研究報告形式 (サブタイトル) —

電子 花子[†] 情報 太郎[‡] 通信 次郎[‡]

[†] 第一大学工学部 〒105-0123 東京都港区山田 1-2-3

[‡] 大阪株式会社開発部 〒565-0456 大阪府吹田市河田 4-5-6

E-mail: [†] hanako@denshi.ac.jp, [‡] {taro, jiro}@jouhou.co.jp

あらまし Microsoft Word による電子情報通信学会技術研究報告形式のテンプレートファイルです。
キーワード Windows, Word, 信学技報, テンプレート

IEICE Word Template (Title) for CCS — The Format of Technical Report (Subtitle) —

Hanako DENSHI[†] Taro JOUHO[‡] and Jiro TSUSHIN[‡]

[†] Faculty of Engineering, First University 1-2-3 Yamada, Minato-ku, Tokyo, 105-0123 Japan

[‡] R&D Division, Osaka Corporation 4-5-6 Kawada, Suita-shi, Osaka, 565-0456 Japan

E-mail: [†] hanako@denshi.ac.jp, [‡] {taro, jiro}@jouhou.co.jp

Abstract IEICE (The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers) provides a word template file for the Technical Report of IEICE.

Keywords Windows, Word, Technical Report, Template

1. 原稿用紙

1.1. 【重要】CCS 研究会での原稿スタイルについて

CCS 研究会では従来の文章のみの原稿のみならず、**PowerPoint 等で作成したスライドによる原稿の投稿も可**とします。どちらの場合もページ数は 4~6 ページでの執筆をお願いします。また、言語は和英どちらも可です。

スライドを用いた原稿の作成については、以下の注意事項をお読みになり、執筆してください。

- ◇ 原稿 1 ページ目は従来の原稿の 1 ページ目 (和英タイトル・和英アブスト) を用いてください (スライドを含んだ原稿は 2 ページ目以降となります。タイトルページとスライド原稿を PDF 結合等で繋いでください。なお、**タイトルスライドは含めない**でください)。
- ◇ スライドでの原稿作成には**原則 CCSweb に公開している指定されたテンプレート**を使用してください。また、文字サイズは「**20 ポイント以上**」としてください。なお、研究会当日の発表スライドはこの限りではありません。
- ◇ 1 ページあたりのスライド数は 4 枚 (**4 枚 1 ページに集約。サンプルファイル参照**) としてください。

- ◇ 2 ページ以降の余白を「**上部 2.5 cm, 下部 1.5 cm, 左右各 1.5 cm**」空けてください。また、余白部分には、ページ番号や日付等の情報は含めないようにしてください (**大学・企業名, 研究室名も不可**)。Adobe Acrobat を用いて作成した詳細を別紙に記載しましたので、ご参照ください。
- ◇ **本予稿は電子情報通信学会の出版物**として扱われます。したがって、特にスライドの図、表の取り扱いには十分ご注意ください。他の **web ページ** などから転用した場合、その**出展を明示**してください。また、4.にある通り、本予稿は白黒印刷されますゆえ、十分ご留意の上、作成くださいますようお願いいたします。
- ◇ 参考文献を多く載せてください。記述方法は、従来の原稿のスタイルでの記述、または、スライド内への記述のどちらでもかまいません。

1.2. タイトルその他(1 ページ目上部)に関して

技術研究報告の 1 ページ目上部には、タイトル、発表者氏名、所属、住所、メールアドレス、キーワードの和文と英文及びあらまし(和文 300 字程度、英文 100 語程度)を、それぞれ記述してください。

各研究会より [特別招待講演] と指示されている方は [特別招待講演], [特別講演] の方は [特別講演], [招待

講演]の方は[招待講演]，[基調講演]の方は[基調講演]とタイトルの前にお入れ下さい。

1.3. 本文に関して

本文は 1.1 の「タイトルその他」に続けて記述してください。記述に関しては、このテンプレートファイルを用いて作成するか、あるいは、任意の A4 判の用紙を利用することができます。その場合には、執筆要項を参照してください。

2. 原稿提出枚数

連絡用紙に指定の提出枚数が記載してあります。図・表、写真を含め制限枚数以内で作成して下さい。原稿を作成する前に、手持ちの原稿量と制限枚数とを十分勘定して必ず制限枚数におさまるようご注意ください。

3. 原稿の書き方

インクは黒とし、印字のカスレや濃淡のムラがないこと。片面で印刷すること。

文字の大きさ：ワープロおよびタイプの場合、本文は 9 ポイント活字を標準とし、字間および行間は適宜調整すること。なお、標題は拡大文字とするのが望ましい。

4. 図と表、写真

図面、写真、表の文字や数字は本文と同じ大きさとして下さい。また、白黒印刷のため、カラー写真も白黒での印刷となりますので、黄色などは印刷時に色が出ないことがあります。十分ご留意の上、作成くださいますようお願いいたします。なお、本論文の著作権は本会に帰属します。そのため、**スライドに用いる図や写真には細心の注意を払ってください**(WEB 上にある写真や図等を含めないようにして下さい)。

5. 著者贈呈分

出来上がりしました技術研究報告は 1 件につき 1 部(合本)贈呈します。発表当日受付の担当者に発表者である旨お申し出下さい。

6. 著作権について

本会著作権規程

<http://www.ieice.org/jpn/about/kitei/chosakukenkitei.html> 参照

本会技術研究報告に掲載される論文は、昭和 59 年 3 月の理事会の決定により、著作権は本会に帰属することになりました。詳細は以下のとおりです。

(1) 本会の技術研究報告に掲載される論文等の著作

権(複製、翻訳、翻案、電子的形体での利用等のすべてを含む包括的な著作権)は、原則として本会に帰属するものとする。

(2) 国際会議、他学会との共催研究会等特別の事情により(1)項の適用が困難な場合は、別途協議の上処置する。

(3) 著者自身が本会以外に投稿する場合(利用先媒体が紙版の場合)、本会に許可を求めるのが原則であるが、「権利表示」と「出所の明示」をすれば、実質的には省略する。ただし、営利目的の出版物に投稿する場合は、本会に申し出ることとする。

(4) 第三者から、論文等の複製、翻訳、翻案、電子的形体での利用に関する許諾の要請があり、本会において必要と認めた場合は、本会において要請に応ずることができる。ただし、営利目的の出版物に対する許諾については著者に必ず連絡をする。

(5) 本会が第三者に対して複製、翻訳、翻案、電子的形体での利用等の許諾を有償で行ったことにより収入のあった場合は、当面本会会計に繰入れ、学会活動に有効に利用するものとする。

以上により、技術研究報告に掲載される論文等の著作権は、本会に帰属することとなりますので御了承の上、電子投稿の場合は投稿時にチェックを、紙での提出の場合には著作権譲渡書を必ず原稿に同封して提出して頂きますようお願いいたします。

7. 発行日について

研究会開催初日の 1 週間前 (7 日前) を発行日 (公知日) としておりますのでご注意ください!

1 回の開催につき連続した複数日で開催される場合、研究会資料(技報)は研究会ごとに 1 冊の合冊で発行致します。(2008 年 8 月以降は全ての研究会で合冊です。)

これにより、技報の発行日(公知日)は初日の 1 週間前(7 日前)となりますので、ご注意ください。

特許権につきまして、発行日から 6 ヶ月間は権利を主張できませんが、投稿する方は投稿論文の特許、その他の権利を早めに申請する等、権利保護に充分注意してください。

8. 問合せ先

一般社団法人電子情報通信学会

大会・研究会部研究会課

〒105-0011 東京都港区芝公園 3 丁目 5 番 8 号

機械振興会館内

TEL : (03) 3433-6691 FAX : (03) 3433-6659

文 献

- [1] (雑誌の場合) 著者名, “標題,” 雑誌名, 卷, 号, pp.を付けて始め-終りのページ, 月(英語)年.
- [2] (雑誌例 1) 山上一郎, 山下二郎, “パラメトリック増幅器,” 信学論(B), vol.J62-B, no.1, pp.20-27, Jan.1979.
- [3] (雑誌例 2) W. Rice, A. C. Wine, and B. D. Grain, diffusion of impurities during epitaxy, Proc. IEEE, vol.52, no.3, pp.284-290, March 1964.
- [4] (著書, 編書の場合) 著者名, 書名, 編者名, 発行所, 発行都市名, 発行年.
- [5] (著書, 編書例 1) 山田太郎, 移動通信, 木村次郎(編), pp.21-41, (社)電子情報通信学会, 東京, 1989.
- [6] (著書, 編書例 2) H. Tong, Nonlinear Time Series: A Dynamical System Approach, J. B. Elsner, ed., Oxford University Press, Oxford, 1990.
- [7] (著書の一部を引用する場合) 著者名, “標題,” 書名, 編者名, 章番号または pp.を付けて始め-終りのページ, 発行所, 発行都市名, 発行年.
- [8] (著書の一部引用例 1) 山田太郎, “周波数の有効利用,” 移動通信, 木村次郎(編), pp.21-41, (社)電子情報通信学会, 1989.
- [9] (著書の一部引用例 2) H. K. Hartline, A. B. Smith, and F. Ratliff, Inhibitory interaction in the retina, in Handbook of Sensory Physiology, ed. M. G. F. Fuortes, pp.381-390, Springer-Verlag, Berlin.
- [10] (国際会議の場合) 著者名, “表題,” 会議名, no.を付けて論文番号, pp.を付けて始め-終りのページ, 都市名, 国名, 月(英語)年.
- [11] (国際会議例) Y. Yamamoto, S. Machida, and K. Igeta, “Micro-cavity semiconductors with enhanced spontaneous emission,” Proc. 16th European Conf. on Opt. Commun., no.MoF4.6, pp.3-13, Amsterdam, The Netherlands, Sept.1990.
- [12] (国内大会, 研究会論文集の場合) 著者名, “標題,” 学会論文集名, 分冊または号, no.を付けて論文番号, pp.を付けて始め-終りのページ, 月(英語)年.
- [13] (国内大会, 研究会論文集例) 川上三郎, 川口四郎, “紫外域半導体レーザー,” 1995 信学全大, 分冊 2, no.SB2-1, pp.20-21, Sept.1995.